

文楽界の中核を担う吉田一輔と、長男で若手ホープの吉田簑悠
吹田出身の一輔・簑悠親子が3年ぶりにメイシアターに登場します

人形に命を吹き込み、女形を中心に上品な芸に定評がある人形遣いの吉田一輔は祖父は四世桐竹亀松、父は桐竹一暢で、息子の吉田簑悠で四代にわたる人形遣い一家。

元高校球児で芸歴10年の吉田簑悠と、令和3年10月メイシアター文楽公演で「傾城阿波の鳴門・巡礼歌の段」で母お弓（一輔）、娘おつる（簑悠）で親子を演じました。今回は、華やかな舞踊「三人禿」で共演します。



吉田一輔
ICHISUKE
YOSHIDA

◆ 芸歴 ◆

昭和58年 父、桐竹一暢に入門、桐竹一輔と名のる(13才)
昭和60年 4月 国立文楽劇場で初舞台
平成16年 5月 三代吉田簑助門下となり、吉田姓を名のる

◆ 受賞歴 ◆

平成17年 4月 第33回(平成16年)文楽協会賞
平成19年 1月 平成17年度因協会奨励賞
平成21年 4月 第28回(平成20年)国立劇場文楽賞文楽奨励賞
平成22年 2月 平成21年度咲くやこの花賞
平成22年 8月 大阪文化祭賞奨励賞
平成24年11月 十三夜会賞
平成25年 9月 平成25年度大阪文化祭グランプリ
令和2年 3月 令和元年度大阪文化祭賞<第一部門>
令和6年 1月 2023年関西元気文化園賞 ニューパワール賞



吉田簑悠
MINOHISA
YOSHIDA



◆ 芸歴 ◆

平成25年11月 吉田簑助に入門、研究生となる
平成26年 4月 吉田簑悠と名乗る
平成26年11月 国立文楽劇場で初舞台

◆ 受賞歴 ◆

令和2年 3月 令和元年度大阪文化祭賞<第一部門>

二人禿 (10分)

あらすじ

豊竹靖太夫 禿 吉田一輔
竹本聖太夫 禿 吉田一輔
鶴澤清 丈 吉田簑悠
鶴澤燕二郎
鶴澤清 方

解説 (30分)

太夫 豊竹靖太夫
三味線 鶴澤清 丈
人形 吉田簑悠

休憩 (20分)

壺坂観音霊験記

沢市内より山の段 (60分)

あらすじ

豊竹靖太夫 お里 吉田一輔
鶴澤清 丈 沢市 吉田玉翔
鶴澤清 方 観世音 吉田玉延

お囃子 望月太明蔵社中

令和3年メイシアター中ホールでの公演10



あらすじ

二人禿

昭和16年(1941年)、大阪の四ツ橋文楽座で初演。

禿とは、遊郭で行儀見習いのため花魁に仕えている少女のこと。京都・島原の遊郭で働く二人の禿が羽根突きと手毬に興じます。そこで歌われる数え歌に、禿の日々の暮らしぶりが織り込まれています。ほのぼのとした春の日の風情が漂う演目です。

壺坂観音霊験記

沢市内より山の段

この作品は明治時代に作られ、人形浄瑠璃文楽の演目の中では比較的新しい作品です。その昔、土佐町(今の奈良県高取町)に住む盲目の沢市は、妻お里とともに、細々と暮らしておりました。

あるとき、沢市はお里が明け方になると、毎日のように出かけていることに気づき、不貞をはたらいているのではないかと疑って妻を問い詰めました。するとお里は沢市の目が見えるように壺坂寺の観音様に願掛けに行っていたことがわかります。お里を疑ったことを恥じて、沢市も一緒に観音参りを始めますが、お里のことを思うと自分がない方が幸せになれると考える、谷に身を投げて自らの命を絶つてしまいます。沢市の死を悲しんだお里も後を追って谷に身を投げてしまいます。

二人の夫婦愛を聞き届けた観音様は……この物語は、心中物や、時代物でも悲劇的な結末の多い、文楽の演目の中で、数少ないハッピーエンドの作品です。